

「武蔵野・再考」 関連年表

先史～古代（旧石器時代～平安時代）

武蔵野台地が形成される。台地の表面を覆う関東ローム層は、水が溜まりにくく、稲作には不向きで、平安時代までは草木や林が広がる原野だった。

- 50万年前～12万年前 富士山や箱根からの火山灰などが堆積（関東ローム層）。地殻隆起や海面変動、多摩川をはじめとする河川的作用を経て、広大な扇状の台地（武蔵野台地）が形成される。
- 3万2000年前 武蔵野台地に人が登場する。
- 4世紀中頃 大和朝廷が全国統一を進める。
- 5世紀後半 稲荷山古墳（埼玉県行田市）に金錯銘鉄剣（国宝）が納められる。この地方の豪族が大和政権に仕えていたことが記されている。（現存する日本最古の文章）
- 534年 武蔵国造の乱。武蔵国を治める笠原氏の同族間の争い。
- 701年 大宝律令が制定。五畿七道・国郡の制が定められ、21の郡からなる武蔵国が正式な行政単位となる。政治の中心となる国府は多摩郡（東京都府中市）に置かれる。
- 708年 秩父で採掘された自然銅が朝廷に献上され、日本で最初の流通貨幣、和同開珎が铸造される。
- 710年 平城京に遷都。
- 716年 大和朝廷が武蔵国の北西部に高麗郡（埼玉県飯能市あたり）を設置。渡来人を組織的に定住させ、地方開発や国家統治に活用する目的があった。
- 720年 「日本書紀」において「武蔵」という国名が初めて史書に現れる。1世紀ごろ、日本武尊が東国遠征の際に武蔵の国に立ち寄ったとされる。
- 757～765年頃 聖武天皇の詔により、武蔵国分寺（東京都国分寺市）が建立される。
- 758年 大和朝廷が武蔵国に新羅郡を設置。後に新座郡と表される。（現在の埼玉県志木市、新座市あたり）
- 759～780年 「万葉集」が成立。この中の5首に武蔵野という地名が詠まれる。
- 794年 平安京に遷都。武蔵国は名馬の産地として良質な馬を貢納していた。
- 850～886年頃 「伊勢物語」が成立。武蔵野は見渡す限り草原が広がる荒野として描写される。

中世（鎌倉時代～戦国時代）

開発は限定的で原野的風景が継続。長期にわたり戦乱の舞台となる。

- 1180年頃 武蔵七党と言われる同族的な武士団が生まれ、鎌倉幕府成立を支える。
- 1185年 源頼朝が鎌倉幕府を開く。支配力強化のため鎌倉街道が整備される。
- 1300年頃 「吾妻鏡」が編纂される。鎌倉幕府の歴史書で、多摩川からの引水による武蔵野の開墾を命ずる記述も見られる。
- 1333年 分倍河原の合戦。反幕府軍の新田義貞と鎌倉幕府が多摩川畔、分倍河原（東京都府中市）で対決。新田軍が勝利し、鎌倉幕府が滅亡。この合戦の最中に武蔵国分寺が焼失した。
- 1336年 足利尊氏が室町幕府を開く。関東は鎌倉府による統治となる。
- 1352年 武蔵野合戦。足利尊氏の北朝軍が小手指原（埼玉県所沢市）で南朝軍を破り、尊氏が東日本支配の基盤固めに成功する。
- 15世紀中頃 足利氏が世襲する鎌倉公方とその補佐役の関東管領の対立が激化。約30年にわたる関東大乱。
- 1457年 相模の扇谷上杉氏が河越城（埼玉県川越市）を築城し拠点に移す。同年、家臣の太田道灌が江戸城を築城する。
- 1535～1546年 河越城の戦い。武蔵国の要衝であった河越城をめぐる、扇谷上杉氏と小田原の後北条氏が争い、勝利した後北条氏が武蔵国まで勢力を拡大する。

近世（安土桃山時代～江戸時代）

江戸幕府による武蔵野台地の開発が本格化。用水路の開削による新田開発のほか、雑木林での堆肥作りや薪の採取など、風土を活かした持続可能な農業が開発される。

- 1590年 豊臣秀吉による小田原征伐。秀吉が関東地方の支配を確立する。同年、徳川家康が江戸に国替え（関東移封）。徳川家康の命により、神田上水が井の頭池より水を引いて開削される。
- 17世紀初め頃 この頃、広大な草原、富士山や筑波山などが描かれた「武蔵野屏風」が多く描かれる。
- 1603年 徳川家康が江戸幕府を開く。
- 1653～1654年 江戸の人口急増に対応するため玉川上水が開削される。玉川庄右衛門、清右衛門兄弟により、羽村から四谷まで約43kmがわずか8カ月で完成する。
- 1655年 川越藩主により野火止用水が開削される。
- 1660年 荒川と利根川の氾濫により大洪水が発生。これを機に荒川、利根川の分流、堤防整備が進む。
- 1657年 江戸明暦の大火。多くの罹災者が武蔵野へ移住する契機となる。
- 1694年 川越藩による三富新田の開発。江戸期における新田開発の先駆け。
- 1716～1745年 享保の新田開発。8代将軍徳川吉宗の享保の改革の一環で、武蔵野台地の耕作が進められる。
- 1737年 幕府の命により小金井の玉川上水両岸約6kmにわたり、奈良の吉野山と茨城の桜川から取り寄せたヤマザクラが植えられる。
- 1853年 ペリー来航。その後、尊王攘夷運動が激化し、武蔵野地域も治安が悪化する。
- 1867年 大政奉還。

近代（明治時代～太平洋戦争）

鉄道開通に伴い、都市部への接続が強化され、沿線に移り住む人々が増加する。雑木林や緑地は残りつつも、一部は住宅地へと変化し始める。国木田独歩らは、武蔵野の雑木林に美を見出し、近代化により自然が失われることにいち早く意識を向けた。

- 1868年 明治維新政府発足。
- 1871年 廃藩置県により武蔵国が廃止され、東京府、埼玉県、神奈川県に再編される。
- 1877年 E・S・モースが大森貝塚（東京都品川区）を発見する。
- 1885年 日本鉄道品川線が赤羽～品川間で開通する。武蔵野台地を最初に走る鉄道で、山手線の前身。
- 1886年 日本でコレラが流行。水質改善のため、東京府では上水道の設計が進められる。
- 1887年 東京電灯会社が日本橋の茅場町に「第二電燈局」を建設。日本の火力発電が始まる。
- 1889年 町村制が施行され、武蔵野村（東京都武蔵野市）が成立。名称は、武蔵野台地にちなんで付けられた。JR中央線の前身である甲武鉄道が新宿～八王子間で開通する。甲州街道沿線住民の反対運動など紆余曲折を経て決定された。
- 1895年 西武国分寺線、新宿線の一部の前身である川越鉄道川越線が国分寺～川越間で開通する。
- 1896年 国木田独歩が東京府豊多摩郡渋谷村（東京都渋谷区宇田川町）に居を構える。
- 1898年 国木田独歩が「今の武蔵野」を『国民之友』に連載開始（後に「武蔵野」と改題）。明治期の急速な都市化の中で失われゆく武蔵野の雑木林や田園風景に詩趣を見出し、それらを自然主義的視点で描いた。淀橋浄水場完成。原水は玉川上水を利用。
- 1901年 国木田独歩『武蔵野』（民友社）刊行。
- 1907年 徳富蘆花が夫婦で東京府北多摩郡千歳村粕谷（東京都世田谷区粕谷）に移る。東急田園都市線の前身である玉川電気鉄道玉川線が渋谷～玉川間で開通する。
- 1910年 秩父地域での豪雨により、荒川で大洪水が発生。これを契機として荒川放水路が開削される。（1930年完成）
- 1912年 明治天皇崩御、大正に改元。
- 1913年 徳富蘆花『みみずのたはこと』（新橋堂書店）刊行。千歳村粕谷での生活を描いた。京王線が笹塚～調布間で開通する。
- 1915年 岸田劉生が《道路と土手と堀（切通之写生）》（重要文化財指定、東京国立近代美術館所蔵）を制作。当時岸田が住んでいた代々木付近の風景を描いた作品。西武池袋線の前身である武蔵野鉄道武蔵野線が池袋～飯能間で開通する。
- 1917年 「武蔵野の自然并に人文の発達を研究し、且つ其の趣味を普及する」ことを目的に武蔵野会が発足。代表は人類学者の鳥居龍蔵。日本初の郊外型公園として、井之頭恩賜公園（東京都武蔵野市）が開園。江見水蔭『考古小説 三千年前』（實業之日本社）刊行。大森貝塚など武蔵野周辺を舞台とした空想冒険小説。田山花袋『東京の三十年』（博文館）刊行。国木田独歩や柳田国男らとの武蔵野をめぐる交流を描いた。

- 1918年 雑誌『武蔵野』（武蔵野会）創刊。
佐藤春夫が「田園の憂鬱」を雑誌『中外』（不二出版）に発表。中里村大字鉄（神奈川県横浜市青葉区鉄町）が作品の舞台。
- 1923年 関東大震災が発生。被害の大きかった都市部から郊外へ移り住む人が増加。以後、郊外の宅地化が進む。
- 1925年 JR山手線の前身である国鉄山手線が環状運行を開始。
- 1926年 大正天皇崩御、昭和に改元。
- 1927年 小田急小田原線が新宿～小田原間で開通。
- 1928年 町制施行により武蔵野村が武蔵野町となる。
- 1929年 柳田国男が東京府北多摩郡砧村（東京都世田谷区成城）に居を構える。
- 1931年 満州事変（柳条湖事件）。
- 1937年 徳富蘆花没後10周年に際し、愛子夫人から邸宅と土地、遺品すべてが東京市に寄付され、翌年に東京市蘆花恒春園が開園。
- 1939年 「東京緑地計画」が決定。以降、東京郊外に残る武蔵野の雑木林が「大緑地」として整備され、現在の都立小金井公園や都立砧公園などの前身となった。
- 1940年 JR川越線の前身である国鉄川越線が開業。大宮駅から川越駅を経て、埼玉県日高市の高麗川駅までを結んだ。
- 1941年 日米開戦。
- 1943年 福原信三（編著）写真集『武蔵野風物』（靖文庫）刊行。
- 1945年 東京大空襲。
師岡宏次は戦争末期に武蔵野の農家3カ所にカメラとフィルムを疎開させ、その行き帰りに武蔵野の風景を撮影する。
ポツダム宣言受諾。

現代（戦後～現在）

戦後の人口増加に伴い、都市部の人口の過密化とともに、郊外の宅地化がさらに進む。主要なエネルギー源が石炭から石油に代替され、雑木林の価値は低迷する。現在では、武蔵野の雑木林や緑地の保全活動が進められる。

- 1947年 市制施行により武蔵野町が武蔵野市となる。
- 1948年 東京都三鷹市の玉川上水で太宰治が山崎富永と入水心中。
武蔵野会が武蔵野文化協会へ改称。
武蔵野文化協会と東京都により、井の頭恩賜公園内に武蔵野博物館が開館。
- 1950年代 都市ガスが引かれていない地域で、薪や炭に代わり、LPガス（液化石油ガス）が家庭用燃料として急速に普及する。
- 1950年 大岡昇平が「武蔵野夫人」を雑誌『群像』（講談社）に発表。武蔵野のハケ（崖地）が舞台の恋愛小説。
- 1953年 手塚治虫がトキワ荘（東京都豊島区南長崎）に移り住む。
- 1954年 都立小金井公園が開園。武蔵野博物館が井の頭恩賜公園から移転し、園内に武蔵野郷土館として開館。
- 1955年 東京都北多摩郡砂川町（立川市砂川町）付近にあった在日米軍立川飛行場の拡張を巡り砂川闘争が起こる。
- 1956年 島田謹介 写真集『武蔵野』（暮しの手帖社）刊行。
手塚治虫『鉄腕アトム』第1巻刊行。収録されている「赤いネコ」は、都市開発による武蔵野の自然破壊がテーマ。
- 1961年 向井潤吉が、民家を描く傍ら撮りためた民家の写真を手製アルバム「民家集輯」としてまとめ始める。
- 1964年 東海道新幹線が東京～大阪間で開通。
第18回オリンピック東京大会が開催。
都道318号（環七通り）が開通。
串田孫一編『武蔵野』（雪華社）刊行。写真は島田謹介。国木田独歩「武蔵野」、柳田国男「武蔵野の昔」などを収録。
- 1965年 淀橋浄水場が閉鎖、廃止。浄水機能は東村山貯水池へ移転。
- 1966年 国内初の商業用原子力発電として、日本原子力発電株式会社の東海発電所が営業運転を開始。
- 1967年 中央自動車道が調布～八王子間で開通。
- 1970年 東京都杉並区の高校で、体育の授業中に複数の生徒が目の刺激や、喉の痛みなどの症状を訴え、光化学スモッグによる被害が初めて明らかになる。
- 1971年 関越自動車道が練馬～川越間で開通。
東松友一写真集『武蔵野』（図書出版木耳社）刊行。
- 1973年 JR武蔵野線の前身である国鉄武蔵野線が府中本町～新松戸間で開通。
第4次中東戦争を機に第1次オイル・ショックが始まる。
- 1974年 田沼武能が初の写真集『武蔵野』（朝日新聞社）刊行。
野火止用水が東京都により歴史的環境保全地域に指定される。
- 1975年 田沼武能、島田謹介らの写真が収録された『豪華風景写真集 武蔵野の四季』（毎日新聞社）が刊行。
- 1976年 師岡宏次写真集『思い出の武蔵野』（講談社）刊行。

- 1979年 イラン革命を機に第2次オイル・ショックが始まる。
- 1982年 東北新幹線が大宮～盛岡間で開通。
上越新幹線が大宮～新潟間で開通。
井伏鱒二『荻窪風土記』（新潮社）刊行。
黒井千次が「連作武蔵野短編 第1回 たまらん坂」を雑誌『海』（中央公論社）に発表。（1988年に福武書店より刊行）
映画「となりのトトロ」（宮崎駿監督、スタジオジブリ）公開。監督の自宅がある所沢などが作品の舞台となっているといわれる。
埼玉県で新河岸川河川改修事業の掘削築堤工事中、廃プラスチックや有機溶剤入りのドラム缶などの廃棄物が埋設されていることが確認される。
- 1989年 昭和天皇崩御。平成に改元。
- 1991年 淀橋浄水場跡地に丹下健三設計による東京都庁舎が新築移転される。
狭山丘陵の土地を買い取るナショナル・トラスト活動が「トトロの森1号地」を皮切りに本格化する。
- 1993年 武蔵野郷土館の資料や一部施設を継承し、都立江戸東京たてもの園が小金井公園内に開園。
映画「平成たぬき合戦ぼんぼこ」（高畑勲監督、スタジオジブリ）公開。ニュータウン開発による多摩丘陵の自然破壊がテーマ。
- 1995年 彫刻家の若林奮が東京都西多摩郡日の出町のゴミ処分場建設に反対し、建設予定地の森の中に、土地全体を作庭のように作品化した《緑の森の一角獣座》（詩人の吉増剛造が命名）を制作。
映画「耳をすませば」（近藤喜文監督、スタジオジブリ）公開。多摩ニュータウンの北端に位置する聖蹟桜ヶ丘が舞台。
- 1997年 大倉舜二写真集『武蔵野』（シングルカット社）刊行。
- 1999年 玉川上水が東京都により歴史的環境保全地域に指定される。
- 2000年 若林奮の《緑の森の一角獣座》が行政代執行により撤去される。
- 2001年 三鷹市立アニメーション美術館（三鷹の森ジブリ美術館）が井の頭恩賜公園内に開館する。
多摩都市モノレールが立川北～多摩センター間で開通。
- 2002年 「向井潤吉の絵画と写真 絵画が語る風景、レンズが見た風景」展（世田谷美術館）開催。
多摩川の丸子橋付近で野生のアゴヒゲアザラシ“タマちゃん”が見つかり話題となる。
- 2006年 田沼武能写真集『武蔵野讃歌』（武蔵野ネット）刊行。
- 2009年 武蔵野国府跡が国史跡に指定。
- 2010年 映画「借りぐらしのアリエッティ」（米林宏昌監督、スタジオジブリ）公開。原作はメアリー・ノートン『床下の小人たち』。舞台を日本に移し、小金井界限などを参考にした。
- 2011年 東日本大震災発生。
「武蔵野を歩く 向井潤吉と師岡宏次」展（世田谷美術館分館 向井潤吉アトリエ館）開催。
- 2012年 東京スカイツリーが完成。高さは武蔵の語呂合わせで634メートル。
- 2015年 「向井潤吉の民家 絵画と写真」展（世田谷美術館分館 向井潤吉アトリエ館）開催。
- 2018年 雑誌『武蔵野樹林』（角川文化振興財団）創刊。
赤坂憲雄『武蔵野をよむ』（岩波新書）刊行。
- 2019年 令和に改元。
- 2020年 埼玉県所沢市に角川武蔵野ミュージアムがオープン。
- 2022年 齋藤潤一郎 漫画『武蔵野』（リイド社）刊行。
PFAS（有機フッ素化合物）が米軍横田基地（立川市）や化学工場周辺の地下水・水道水から高濃度検出される。
- 2023年 田沼武能写真集『武蔵野 わがふるさと』（クレヴィス）刊行。
埼玉県の三富新田に伝わる「武蔵野の落ち葉堆肥農法」が国連食糧農業機関（FAO）により世界農業遺産に認定。江戸時代から続く持続可能な農法として世界的に評価される。
- 2024年 齋藤潤一郎 漫画『武蔵野 ロストハイウェイ』（リイド社）刊行。
- 2025年 全国で連日クマによる人的被害が報道される。東京都青梅市でもクマが相次いで目撃される。
- 2026年 赤坂憲雄『いくつもの武蔵野へ 郊外の記憶と物語』（岩波書店）刊行。
金村修による写真シリーズ〈Musashino Grizzly〉が制作される。
「武蔵野・再考—写真家たちの武蔵野と向井潤吉の写真」展（世田谷美術館）開催。

参考文献：

武蔵野文化協会編『武蔵野事典』、2020年

赤坂憲雄『いくつもの武蔵野へ』岩波書店、2025年

大石学編『多摩と江戸—鷺場・新田・街道・上水—』けやき出版、2000年